

台湾・「慰安婦」の証言 日本人にされた阿媽たち

1895年、日清戦争後に台湾を植民地にした日本は、半世紀もの間、人びとを模範的な「日本人」にするための同化政策と皇民化教育を進めました。太平洋戦争が始まると、男たちは勇敢な日本兵に、女たちは「慰安婦」にされました。阿媽たち(台湾語でおばあさん)の静かな眼差しは、今も日本の責任を鋭く告発しています。



黄阿桃さん
1923年生まれ
20歳の時、看護助手の仕事だと騙されて、インドネシア・セレベス島のマカッサルへ。航空基地の慰安所で、一日に20数人の日本兵の相手をさせられました。こんなこと、両親には話せませんでした。



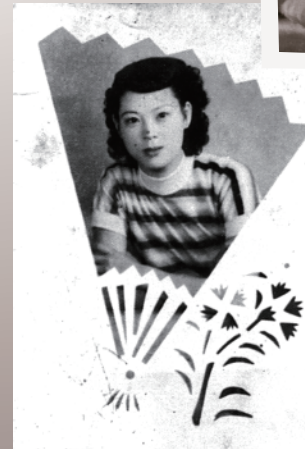
陳桃さん
1922年生まれ
20歳の時、派出所の巡査に騙されて高雄港から軍の船でアンダマン島へ。アンダマンの慰安所で1年間、ジョホールの慰安所では2年間、働かされました。2度自殺を図りましたが死ねませんでした。



呉秀妹さん
1917年生まれ
23歳の時、警察に騙されて中国の広東へ。軍人は位が高いほど凶暴で、殺されるかと思うほど恐かった。日本政府が私たちを忘れても、私は永遠に忘れません。



高寶珠さん
1921年生まれ
20歳の時、役所からの通知で「日本軍への奉仕活動」と言われて、中国の広東へ。山の中で「慰安所」の看板を見て何をするのかわかりました。部隊と一緒にビルマのラングーンまで連行されました。日本人への怒りでいっぱいです。



盧溝妹さん
1926年生まれ
17歳の時、看護婦にならないかと誘われて海南島・紅沙の慰安所へ。1日に20数名の相手をさせられ、自殺もできませんでした。妊娠8ヵ月で解放されましたが、子どもは生まれてすぐに死にました。私の青春時代を返してください。



陳蓮花さん
1923年生まれ
21歳の時、工場の日本人上司から「看護助手になれ」と勧誘されてフィリピンのセブ島へ。慰安所にいたのは1年間です。日本軍が敗退する時、弱った仲間は日本兵に殺され、私は米軍の捕虜になりました。

蘇寅嬌さん
1923年生まれ
20歳の時、妹と一緒に騙されて海南島・紅沙の慰安所へ。慰安所で2年間働かされた後、盲腸の手術で身体が弱ったので、やっと台湾へ帰れました。ずっと悪夢にうなされています。



2013年7月6日(土)~2014年6月29日(日)

開館時間:水~日 13:00~18:00 休館日:月・火・祝日・年末年始